

「^{うま}美し国・三重の地で、共に語り合おう明日のろう教育を」

第23回ろう教育を考える全国討論集会 in みえ

2011年8月19日(金)～21日(日)

速報第6号

2011年 8月20日発行

1日目 第1分科会 第2分科会 第3分科会

第1分科会

『初めてきこえない子を持つ保護者への支援～人工内耳も視野に入れて～』

共同研究者 増田佐和子氏
南村 洋子氏

R児の子どもを持つ親として参加しました。私の子どもが幼児の時と違い、今では人工内耳の装用率が高く、とても驚きました。その中でも人工内耳を装用しても、音声言語でのコミュニケーションのみを行うのではなく、並行して手話も使ってコミュニケーションを行うという話にはとても興味を持ちました。

40代 健聴・男性

第2分科会

『日本語習得を目指して～ろう教育の現場実践から～』

発表者 海老原睦治氏
岡本 朋之氏
共同研究者 上農正剛氏
井坂行男氏

第2分科会
発表者 海老原 睦治 氏



日本語習得の難しさは、日々子どもたちと触れ合う中でも感じます。具体的な例が良かったです。

40代 健聴者

文法指導でいうと、非常に難しいものだと最初は感じたが、話を聞くと理にかなっていると思った。

三重・20代・健聴・男性

第3分科会

『現場での自立活動は今～具体的な取り組み実践例から～』

講師 長谷川 俊夫 氏
共同研究者 前田 浩 氏

講演の内容が模擬授業のようで楽しめた。難聴の子どもたちに対する支援の話を聞いたり、就職に関わった一般常識やマナーについて実践的な模擬授業があった。

女性

模擬授業の子どもに考えさせる授業の流れや質問は大変参考になりました。

鳥取・40代・聴者・女性



目 目 目

選択Aコース 選択Bコース 選択Cコース

選択Aコース

『九歳の壁を越えるためにさらに何が必要か～「口話も手話も」を阻むものと我々に必要な視座～』

講師 脇中 起余子 氏

聞こえの差に関わらず、どれだけことばのシャワーをあびて、豊かなことばに触れるか、どれだけ積み重ねていけるのかが大切と聞いて、やっぱり「これをすれば間違いない」というものではないのだなと再認識できた。そのことをふまえて、こどもたちのことばを含めた成長のサポートを行っていきたいと思った。

三重・20代 健聴・女性

選択Bコース

『東日本大震災、そのとき私たちは…～東北各地のろう学校被災状況から～』

講師 遠藤 良博 氏
高野 郁子 氏



パワーポイントを交えて写真とともに震災の様子、そしてその後の活動の話を聞いて、まるで自分もその場にいるかのようなリアルさを感じた。

支援は今後も続けたいと思う。
滋賀県・男性



選択Cコース

『高等教育現場における情報保障・・・その光と影』

講師 小河 雄嗣 氏
発表者 小林 円 氏
塚本 麻衣氏
坪井 泰樹氏
松延 秀一氏

各大学の情報保障制度や、大学が用意する支援について細かく知ることができた。情報保障については十分なところと不十分なところの差がまだまだ大きいので、このような機会で他の大学の情報保障制度を知ることができるのは良いことだと思う。ぜひまた参加したい。

千葉・20代・女・ろう者

